



弥生時代の風景などを楽しめます

AR唐古・鍵遺跡くよみがえる弥生のムラ

唐古・鍵遺跡史跡公園に弥生時代の風景を再現するアプリ「AR唐古・鍵遺跡くよみがえる弥生のムラ」がApp Store、Google Playで公開されました。

このアプリは「大型建物復元AR」や「弥生のお宝探し」など、唐古・鍵遺跡史跡公園を巡り、学ぶ

ことができる内容となっています。

皆さんのスマートフォンやタブレットで、また、唐古・鍵遺跡史跡公園事務所でタブレットを借りて利用することもできます。タブレットの借用を希望する人は、唐古・鍵遺跡史跡公園事務所の窓口で申し込みください。

主な仕様

機能	内容
大型建物復元 AR	CG で復元した弥生時代の大型建物の外観・内部を、さまざまな角度から見るができます。
弥生のお宝探し	史跡公園内の発掘調査した地点を巡り、画面上で遺物の発掘体験ができます。
顔認識で弥生人に変身!	顔認識機能により、画面に映った顔が弥生時代のシャーマンなどに変身します。

ダウンロード方法

次のQRコードからダウンロードしてください。

なお、アプリのサイズが大きいので、Wi-Fi 環境でのダウンロードをお勧めします。唐古・鍵遺跡史跡公園の近隣では、道の駅「レスティ唐古・鍵」がWi-Fi スポットです。

App Store



Google Play



問 文化財保存課 ☎ 32・4404 / 唐古・鍵遺跡史跡公園事務所 ☎ 34・5500

目指せ!

キミも弥生トラベラー!!

「AR唐古・鍵遺跡くよみがえる弥生のムラ」を実際に操作しながら史跡公園を歩きます。スマートフォン・タブレットを通して弥生時代旅行に行きましょう。

唐古・鍵遺跡史跡公園の新たな楽しみ方がきつと見つかるはずですよ。

日時 4月29日(祝)

▼午前の部：午前10時～正午
(受付 午前9時30分から)

▼午後の部：午後1時～3時
(受付 午後0時30分から)

集合場所 道の駅「レスティ唐古・鍵」2階 多目的室

定員 30人(当日受付/先着順)

年齢不問。小学生以下は保護者同伴

持ち物 スマートフォン・タブレット (iOS,Android端末に限る)

その他 貸出用タブレットを5台用意しています。台数が限られていますので、可能な限りご自身の端末をお持ちください。

町内では8件目の県指定となります

浄福寺の阿弥陀三尊像が 県の有形文化財に指定

浄福寺は、田原本町大字蔵堂に所在する融通念仏宗の寺院です。その本尊である阿弥陀三尊像が、新たに県の有形文化財に指定されました。これで町内の県指定文化財は8件目となります。

☎ 文化財保存課 ☎ 32-4404



写真：奈良県教育委員会提供

もくぞうあみだによらいおよびりょうきょうじぞう

木造阿弥陀如来及両脇侍像 3 軀

種別	有形文化財（彫刻）
所在地	田原本町大字蔵堂 354
所有者	浄福寺
像高	(阿弥陀) 87.7cm (観音) 61.8cm (勢至) 62.2cm
時代	鎌倉時代（13世紀初頭）
指定年月日	平成31年2月22日

本三尊像は、中尊の阿弥陀如来、両脇侍の観音菩薩・勢至菩薩から成ります。阿弥陀（写真中央）は来迎印を結び、観音（向かって右）は片膝を立て両手で蓮台を捧げ、勢至（向かって左）はひざまずいて合掌します。

この姿は、臨終を迎える者のもとに極楽浄土から阿弥陀三尊が迎えに来た場面を現しています。両脇侍の衣がたなびきながら翻る様子は、そのスピード感と臨場感が表れており、当時の極楽浄土や来迎への篤い信仰がうかがえます。

本三尊像の顔立ちや衣などの表現、構造から、制作は13世紀初めごろと考えられます。京都仏師の作とされる京都・盧山寺の阿弥陀三尊像（国指定重要文化財）とは、様式や構造の共通点が多く、作者系統を考えるうえでも注目されます。

県内での坐像形式の来迎彫像は珍しく貴重であるとともに、彫刻史上においても高い価値を持つものです。

拝観 直接、浄福寺（☎ 33-4180）へお問い合わせください。

浄福寺の位置

